

ヴァニタス（ラテン語: vanitas）とは、寓意的な静物画のジャンルの1つ。16世紀から17世紀にかけてのフランドルやネーデルラントなどヨーロッパ北部で特に多く描かれたが、以後現代に至るまでの西洋の美術にも大きな影響を与えている。

ヴァニタスとは「人生の空しさの寓意」を表す静物画であり、豊かさなどを意味するさまざまな静物の中に、人間の死すべき定め of 隠喩である頭蓋骨や、あるいは時計やパイプや腐ってゆく果物などを置き、観る者に対して虚栄のはかなさを喚起する意図を持っていた。

ヴァニタスは、「カルペ・ディエム」や「メメント・モリ」と並ぶ、バロック期の精神を表す概念でもある。

(wikipediaより抜粋)



ヴァニタス画の例

『ヴァニタスの静物』ピーテル・クラースゾーン 1630年

◎制作のポイント◎

油彩・水彩問わず、暗めの背景で彩度を実際よりも低めに、落ち着いた色味でまとめると、ヴァニタス画らしくなります。ヴァニタス画の画像も参考にしつつ色味を決めてみると良いでしょう。

